



HU D&I ACTIVITIES

VOL.18
NOV, 2025

広島大学ダイバーシティ&インクルージョン推進機構 活動報告

モスク見学×ゆるスポーツ体験会

◆日時

2025年11月24日(月・祝)
12:00~16:00

◆主催

ダイバーシティ研究センター

◆場所

広島イスラーム文化センター（東広島市西条町田口2786 - 1）
東広島市総合福祉センター（東広島市西条町土与丸1108）

◆参加者 40名

◆実施目的と概要

包摂的なスポーツが異文化間理解に果たす役割について調査をするため、モスクを利用しているイスラーム教徒と地域の方を対象にして、モスク見学とゆるスポーツ（だれでも楽しめる新しいスポーツ）を体験するイベントを行いました。

*「ゆるスポーツ」とは、「世界ゆるスポーツ協会」が提唱する「年齢・性別・運動神経に関わらず、だれでも楽しめる新スポーツ」（協会サイトより）である。

◆レポート

調査背景：ダイバーシティ研究センターでは、2024年から『ゆるスポーツ』からみるスポーツの包摂性についての研究プロジェクトを行っています。本イベントは、そのプロジェクトの一環で「包摂的なスポーツが異文化間理解に果たす役割についての調査」として行いました。イベントの前後にアンケートを行ったうえで、そのうち14人にはインタビューも行いました。

なぜ「ゆるスポーツ」？：多様な文化背景の人々の関係づくりをするときに、多くの場合、3F（Food, Festival, Fashion）を入り口にします。しかし、異なる文化を表面的に味わうだけで、継続的な人間関係の構築や実質的な異文化間理解にはつながらないという課題があります。そこで本イベントでは、心身を動かしてチームで課題にとりくむ体験としてスポーツに注目しました。



モスク内の様子



インドネシアの料理



モスク見学×ゆるスポーツ体験会

とりわけ、だれでも初心者としてフラットに参加できる「ゆるスポーツ」であれば、多様な参加者が楽しく取り組むことができ、心と体をリフレッシュしながら関係づくりが促されると想定しました。

イベントの概要：東広島市内のモスクを利用しているイスラーム教徒を中心とした外国人住民と、地域の日本人住民が参加しました。実施に当たっては、「広島インドネシア・イスラーム・コミュニティ」の協力を受けました。

イベントの様子：まず全員がモスクに集合し、ハラールフードの店、図書室、礼拝室、キッチンなど、各設備を見学しました。つぎに、非イスラーム教徒が見守るなかでイスラーム教徒が礼拝をおこなった後、インドネシアの軽食を食べながら、イスラームの習慣や価値について講義をみなで聞きました。アンケートによると「実際に来ることができてどんなふうにご覧しているのかがわかって良かったです。軽食とても美味しくみんなで準備をしてくれたのだと感じました」（日本人）「他の人々がモスクに興味を持ってきているのが嬉しかった」（インドネシア人）など、イスラーム文化の案内をつうじて、たがいの距離を縮めることができました。

その後、「ゆるスポーツ」を体験しました。4チームに分かれ、「世界ゆるスポーツ協会」のファシリテータのもと、「シーソー玉入れ」「洗濯テニス」「スピードリフティング」の3競技で勝負しました。失敗したら笑いが起き、成功したらハイタッチがされ、みなで楽しく交流しました。「多くの人が集中して参加し、競技の行方を見守り、プレーを讃えたり、笑ったりなど、普段交流のあるいつもの人達と似たような反応が見られた」（日本人）

「ゆるスポーツの活動はとても愉快だった。楽しんで遊びながら他の人々と交流することができた」（インドネシア人）など、文化的な制約をいったん逃れて、競技者としてたがいに関わることができました。

課題と今後：インタビューでは、もっとゆっくり質問してイスラームについて知りたかった、もっとたくさんの人と作戦をたてて交流したかった、という意見も聞かれ、時間的制約があるなかで、交流を促進する機会を増やす必要性も明らかになりました。

今後、インタビューを分析し、モスク見学とゆるスポーツがどのような相互作用を促したのか、どうすれば効果が高まるかなどを明らかにしていきます。

